『國民新報』1939年12月3日

兵隊さん有難う

私どもの熱情をどうかお汲み取りください　　文人協会

のにして、にくも三のをへます。

とと、これにのみえる皇のは、四百をして、またたくにこれを、のに、ちらさせずにはおきませんでした[。]とふのも、これひとへにに、いのちをぐべくつてたあなた、の御のに、ならぬことであります。

し、八紘一宇への日のは、これがにすべく、やつとそのにいたばかりであります。ひはにこれからであります。のは、ますますくふんどしをめしてゐることを御さい。に、ののがにほしいまでにしてゐるか、そして、をつて一にちたいとて、をへてひる年のが、にいかは、はなどであなたも、にじかもれません。

こののは、むろん□□□□一を報いむとする、からでありませうが、よりには、なるあなた、つまりニツポンのさんにする、ななからしてゐることを御あられよ。三年この、一ののに、なのをげつゝある――このにけるりないのは、のにをないほど、々しくはぐましいものがあるのです。

にはの、のもりませうが、のにはせぬが十百萬となく、ゐることを御じでせうか？われら二百のも、悉くその一であるこ[と]をお知らせすることは、にし奉つたのりとするであります。

『』これはにおける一切のがつて一となり日にづくをすべくして、昭和十四年十月廿九日、にいてされた、な一大であります。をるわりに、をろう――とふのがわれらのモツトーであります。はのこと、日にもありなかつた、このなる、、一一が、そのをたす、一のとしてめたのがに一のにのをへた、をお月のりとしてらうとふことであります。そこでりず、々がこれだけのものをつたのであります。はしいばかりですから、のはごらんのり、ではありますが、し、これにこもつただけはんでけるかとひます。

あなたの！　であれ！

皇軍將兵！　萬々！

ニツポンのさん、ばんざあい！　ばんざあい！　ばんざあい！

□□に、しも□でもなさることがありましたら、にしてさい。あなたのをまとめて、するもありますから[。]ではしつかりみますぞ！

昭和十四年十一月末

京城鍾路二丁目ヤソビル四階

朝鮮文人協會（國民精神總動員朝鮮聯盟加盟）

感謝にむせびつく

未のわがに！

くなりました。あなたのられるもくなるでせう。のがなるの、のにるかはりませんが、をくはいでせう。

づはあなたにいたします。御のために々なをよくもへながらが日のにせられてゐるあなたびあなたににします。

は年五月としてにかけ、の、邑までつたがありまして、のであなたの御と御を□ました。のをきながら、をぢてあなたのい御と、にびつしよりれたシヤツをのにいてる、にんともへないとにぶばかりです。

ではのが一となつて、をもつてすべくをつくりました。

のづあなたにすべき寸を御りいたしますが、御ください。

昭和十四年十一月二十四日　　朴英熙

では御無事で

がります。＜２行判読不可＞せう。あなたのも□□□□ぬれてゐませんですか。

「もらず」のあなたので御ざいますが、になつてなりません。

あなたはどんなでいらつしやいますか。らく、あなたはいゝさん、そしていゝでいらつしやるとはれます。では御をります。さやうなら。

崔貞熙

凱旋の時は朝鮮へ私がご案内致します。

日欽州占領のにしました。桂林がのにちるのももないことゝひます。汪兆銘氏のもいに上りさうだとがおつしやいました。

ではさんをおひげるで一であります。何卒のは、あなたもを御なさる御願申し上げます。そのはのいものを御にれませう。ばずながらが御します。

何卒「南無観世音菩薩」のをへさいませ、のに「怖畏軍陣中　念彼観音力　衆怨悉退散」とおがへになりました。のためにのに御ひになる皇軍勇士に、ずやおの御が御ありのこととじます。

家には十一になるのや、七ツ、五ツになる二ののがりますが、れも「さんはきだ」や、□□□□□□を歌つて居ります。

にがました。も一でが銃を□つて一につはりに、をつて銃後のをしやうとふのがであります。何卒びさる御ひ申げます。

なをほんのとしてげます。おをに御をります。

　昭和十四年十一月二十日

　にて　李光洙　文人協會員

　らぬさまへ

私の代り川崎弘子を

さゝやかなの感謝袋がどんなのにつて、しでもんでくがるかと、々しいをしながらペンをとつてゐます。はきいですか。をかけていらし[や]るでせうか。はですか。

はをかけ、しのないの一年（やゝ年にい）です。」

での御のの御に、の々がどんなにしてもしきれるものではございません、にうございます。

も月をのにりました。だんだんおくなりますから、からは一しほ御もはるでせう。御を御におひします。

しがきくならば、にせじしでもでもじて御したいのですが、それもならず、こんななでは方がありませんから、のにをしてさいをおけしますから、がつてやつてさい。

では、と云ふのがて、びの二百がにして、ペンのもらかに一をするになりました。もそのをしてゐますが、をつてにしげるとなり、もさせてきました。

し□□を□□のはぜひ御りさい。

では御□□と御をります。

　　　京城府本町五ノ五二　津田剛

戰線の困苦を偲び

をくれての一として御みさるの一におたよりをしげるのましたことをんでります。ラヂオ、のあらゆるによつて、ののの萬の一をりてりますが、なものとしてのはのものであることはへるまでもなく、そのにへさせられますことは、ののなでございます。

三年の月日もしましての、の上ではにしたものがいます。[私]のとしましては、お、、の價[に]より[、]それにのれであるにはくつてるでありますが、これらのは々たるものであります。もつときなもの、のをせねばやまぬの日のかられば、のこれらのことはくげられるものでありません。

そちらの御日はでいらつしやいますか。こちらのはのとらぬ日和の日がこの日つゞいてります。

、がなのでこのかさはにかるのでよりしいことです。

こののりめはになつてります。このはのでついしたものであります。一のスローガン！のお月はでいますか。

にりつていらつしやるとはすもののお月だけはしい御でいませうとおししげます。

はるかをあとにのへなさつた一のはどうしてお月のしさばかりにまりましやう。は百二三十にる、は三四十にがるにてはとなく、とをはす、その々のたるや、におけるの想にしたことゝじます。

しながらあなたはににひ、てをりをふとふ一につてそののしみをつてりあるはにあなたのにくのであります。

は々らかであります。これもらあなたのよくにつてさるおでありまして、えずをげてまないのであります。

りにのをおりしげます。

朝鮮　開城　蔡萬植